

新市庁舎の整備エリア（新市庁舎構想検討会議「報告書」をもとにエリア比較）

	内丸エリア	盛岡駅西エリア	盛南エリア
<p>地図</p> <p><凡例> 浸水深の目安</p> <ul style="list-style-type: none"> 10.0m 以上の区域 5.0 ~ 10.0m 未満の区域 3.0 ~ 5.0m 未満の区域 0.5 ~ 3.0m 未満の区域 0.5m 未満の区域 			
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○藩政時代から政治と経済の中心 ○医療、文教、金融、商業等が集積、盛岡の歴史や文化の情報発信の核 ○東大通商店街は昭和の面影が残り、ファンが多い。 ○県庁所在地として政治や社会経済等の都市活動の中枢を担う機能が集積 	<ul style="list-style-type: none"> ○近代的で洗練された都市イメージ ○ターミナル駅の交通拠点性を生かした鉄道・都市間バス等の都市交通の結節点 ○マンション、ホテル、専門学校等が進出 ○国の合同庁舎、盛岡中央消防署等公的機関の建設も進む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○東北自動車道、国道46号盛岡西バイパス等による広域交通拠点性を生かし、計画的に整備された地区 ○中心市街地と盛岡駅西口地区、盛岡南地区を結ぶ道路、バスルート等が整備されている。 ○一般住宅、アパート、マンションが増加し、人口も増加している。
利点	<ul style="list-style-type: none"> ○公共交通網によるアクセス性に優れている。（豊富なバス路線） ○他の官公庁や商業施設が充実し、利用者に利便性 ○周辺商業施設等にとって、市庁舎が他のエリアに移転するより、経済的影響は小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公共交通網によるアクセス性に優れている。（盛岡駅に隣接） ○1万平方メートル以上の市有地がある。 ○仮設庁舎を設置する必要がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自動車によるアクセス性に優れている。 ○事業所の営業活動や飲食等の需要を満たす地区であり、当該利用者にとってメリットが大きい。 ○エリア内の大部分は洪水浸水想定区域外 ○仮庁舎を設置する必要がない。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○洪水浸水想定区域が広い。（岩手県庁、盛岡地方裁判所、岩手医科大学等は洪水浸水想定区域外） ○現地建替えの場合、仮庁舎の整備が必要 ○現市庁舎位置以外に活用可能な市有土地がないため、用地を取得する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ほぼ全域が洪水浸水想定区域内であり、防災機能拠点の役割を果たすための対策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○活用可能な市有土地がないため、用地を取得する必要がある。 ○他エリアに比べ、公共交通機関によるアクセス性が劣る。 ○官公庁の主要施設がなく、当該機関との連携において利便性が劣る。